



暖かい心 広い視野 行動力

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者

守永信幸

〒870-0022

大分市大手町3-2-9

TEL 097-532-4919

FAX 097-534-6598

『安心・安全のための環境整備とは』

7月の豪雨で、日田市、中津市、竹田市、豊後大野市をはじめとし県下各地で大きな被害が発生しました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。そして復旧にあたられる方々やボランティアとして現地で活動された方々には心から敬意を表します。大分県では、この災害対策として、7月17日に7億780万円の補正予算を知事専決処分をしました。救助対策や災害援護資金貸付金、土木関係災害復旧調査のための予算です。本格的な『復旧作業』には、当初予算の災害復旧費114億円が充てられますが、早期に激甚災害等の指定を受け、十分な財源を確保していくことが求められます。



▲橋そのものが流されてしまった箇所（山国川）

また、災害復旧だけでなく、今後災害を未然に防ぐための計画を練っていくことも必要と考えられます。

2012年第2回定例会は、6月19日から7月4日までの16日間の日程で行われ、15の議案や報告案件と7つの意見書が議決されました。

定例会初日の広瀬知事からの県政諸般の報告では、県内経済がダイハツ九州などの好調な自動車需要に支えられる中、関連企業の立地等が進み、また日田キャノンマテリアルの操業開始などにより、生産活動の拡大、雇用環境の改善が期待される情勢に触れる一方で、欧州の信用不安、アメリカ経済の先行き懸念に伴う急激な円高などに注視すべきとの報告がありました。更に、原発の稼働停止の中、供給不足を乗り切るための節電対策に県庁が率先してとり組む中で県民や企業の皆さんに協力を呼びかけると説明。当面の節電対策と併せて再生可能エネルギーの開発を拡大していきたい考えに触れました。

東日本大震災に伴う災害瓦礫の処理については、災害廃棄物の受入基準と持ち込む際の安全確認体制を定め、地域への説明を丁寧に行っているとの報告でしたが、津久見市民を2分して賛否を議論する中で、理解を図るには、更に詳細な情報を国に求めていく必要もあると思われます。風評被害も健康に対する住民の危惧も、信頼の置ける情報が住民に伝えられなかったことから生じています。

その他、県立美術館やトリニータ、九州広域行政機構について、現在の状況が報告されました。

県立美術館については、建設予定地の北側に隣接する大分銀行の社宅の土地と駄の原テニスコート跡地との交換が提案され、この議案に関しては、総務企画常任委員会の中でも議論が行われました。

『東日本大震災被災地を巡って』

6月13日から15日にかけて宮城県仙台市と福島県南相馬市、福島市に東日本大震災からの復旧状況と震災瓦礫の処理状況について調査に行ってきました。大分県では震災瓦礫受け入れについて、賛成派と反対派で議論となっています。賛成派は、「被災地で大量の瓦礫の処理が進まずに復興の妨げとなっており、被災地の皆さんが困っているのだから、何とかしてあげるべきだ」という訳です。また、反対派の主張は、「福島原発の事故により、原発周辺はもとより、風向きによって被災地にも放射能で汚染されている地域があり、汚染された瓦礫が、混入している。

その瓦礫を大分県で処理すれば、処理する周辺の地域住民に健康被害が生じるし、風評被害も免れない」といったことです。これらの主張は、震災瓦礫の中で、広域処理をする瓦礫がどのようなものであるのか、その実態がつまびらかにされていないことにより、生じていると言えます。しかも、福島原発の事故発生直後に詳細な情報が国民に知らされなかったことによる不信感が国民に深く植え付けられてしまったことが大きく影響していると言えます。

そのような状況を打破するために、県民クラブで企画したのが今回の調査活動です。宮城県仙台市では、仮設の焼却施設が整備されている現地の処理の状況。福島県南相馬市では、原発事故に伴う住民の避難の状況や被災地の復興の状況などについて調査しました。また、宮城県仙台市には、あしなが育英会東北事務所が昨年4月11日に開設されており、東日本大震災により親を失った子どもたちの今の状況を東北事務所長から伺いました。



▲津波で打ち上げられた漁船



▲悔しさを語る桜井南相馬市長

原発事故が街の将来を奪った

南相馬市では、桜井市長が我々を出迎えてくれました。約1時間にわたって今回の災害と原発事故がもたらしたことについて語ってくれました。原子力発電所の事故を踏まえ、市長自らが、全市民に避難指示を出したそうです。しかし、国からも東電からも詳しい情報が提供されないままの避難で、住民の中には風で放射性物質が流されていく方向へと逃げ、被爆してしまった住民もいたようです。

何故、きちんと情報を伝えてくれなかったのか、正しい判断が出来る情報をくれなかったのか。桜井市長の国に対する怒りを感じました。

しかも放射能汚染の影響で、まだ多くの住民が避難生活を強いられ、故郷の田畑は荒れ果ててしまっています。南相馬市は、まだ除染作業が進めば帰れる可能性はありますが、原発のあった双葉郡の人々は、いつ帰れるのか分かりません。町の未来が描けないのです。

また桜井市長は、災害瓦礫を基本的にリサイクルすべきと考えています。それは、そこに生活してきた住民の想いの詰まった物だからと言うのです。行方不明のままの住民もいます。そこで市長は、瓦礫と土とを混ぜて、マウンドを作り、そこに地域在来の常緑広葉樹を植えて、『命の森の防潮堤』を作ろうとしています。市長は、瓦礫は決してゴミではないと言います。

きれいに分別されている震災瓦礫

仙台市では、被災現場において重機の脇に3台のダンプを置いて、重機で瓦礫をピックアップする際に大まかに分別し、第1次集積場に持ちこんでから、10区分に分別を行っているとのこと。瓦礫を出来る限りリサイクルに回そうと考えており、市としての目標は50%リサイクルとのこと。そして現段階では、6割程度リサイクルに回せているとのことでした。

リサイクルに出来る限り回したいとの思いは、震災瓦礫が決してゴミではないんだ、そこに生きてきた人がいた証なんだとの思いがあるのではないかと感じました。

最終的に焼却しなければならない物は、仮設の焼却施設で処分していました。焼却処分される木質瓦礫の空間放射線量を測定したところ、0.050 μ Sv/hでした。焼却灰の測定をしたら、0.060 μ Sv/hで、



▲分別された瓦礫

決して高い数値ではありませんでした。被災地の瓦礫は、2014年3月までに処分してしまう目標が設定されていますが、仙台市では半年ほど前倒しで処分できる見通しとのこと。その余力を、瓦礫の処分に手をこまねいている釜石市などの近隣の市町村の可燃物を受け入れて処理することを考えているとのことでした。

時がかかる災害遺児の心のケア

あしなが育英会は、東日本大震災の発生後、直ちに行動を起こしました。遺児となった子どもたちに一時金を給付することを決め、被災地を職員とあしなが奨学生のボランティアとで遺児となった子どもを捜して被災地を駆けめぐったのです。

昨年4月11日には、あしなが育英会東北事務所を設置。本格的な遺児たちの救済活動が始まりました。神戸の震災の時の経験を生かして、遺児たちのメンタルケアも同時並行です。

身近な人たちの死を、目の当たりにした子どもたちの心に刻まれた深い傷を何とか生きるためのバネとしていくことが重要だとスタッフは知っています。

遺児たちや遺族たちと交流を始めて信頼関係が生まれた頃に、ぽつりと「自分が悪かったんだ」と言い出す遺児。「流されていく人たちを救えなかった」。子どもたちだけではない。大人でさえ、「出動する時に、『おまえも早く避難しろ』と言って出ていれば」と悔やめばきりが無い。子どもの場合は、ちょっとしたことで「父ちゃんなんか死んでしまえ」と言ってしまったりするもの。日常であればいつか仲直りできるのが、仲直りする相手が震災後に見つからない。あんなことを言ってしまったから父ちゃんは死んでしまったんだと、自責の念にさいなまれてしまう。こんな想いを、半年、一年以上経ってやっと口に出ることが出来るのです。心のケアには、まだまだ多くの年月が必要です。

今年の3月11日が近づくとつれ、海岸で死んだ人を見たとかいう話が飛び交うようになったと言います。死後の世界があるかどうかは人それぞれの考え方でしょうが、「生きていて欲しい、戻ってきて欲しいという人々の思いが、感じさせるものではないか」と東北事務所長は、語りました。それだけ多くの方々が、子どもも大人も、心に傷を抱えているのでしょう。

あしなが育英会では、心のケアをする『東北レインボーハウス』の建設をめざして、土地の確保や資金づくりにとり組んでいます。



◀あしなが育英会東北事務所



集中豪雨に備えた河川整備が課題

7月3日から断続的に続いた「九州北部豪雨」では、極めて大きな災害が発生しました。日田市、中津市、竹田市などで「見たこともないような豪雨」と表現されるほどの雨が降り、短時間で河川の水量が警戒域を越えてしまいました。気象庁の観測記録を見ると、7月3日と4日の降水量は、日田市で223mm、耶馬溪で303mm。13日と14日の降水量が、日田市で359mm、耶馬溪で353mm、竹田市では12日と13日の降雨が激しく2日間で、358mmといったが北上した後に、南から暖かい湿った空気が進入したことによって豪雨となったとのことでした。このように2回の豪雨に見舞われ、しかも大分県下広くに激しい雨が襲ったのは、経験のないことです。

竹田市の玉来地区では、玉来ダムがあれば被害を抑えることができたのではないかとこの声も出ています。玉来ダムは、事業仕分けで事業が凍結されていました。今回の事象を充分検証し、対応策を考えなければなりません。日田市の花月川の堤防についても、7カ所が決壊しました。また有田川や熊の尾川といった上流域の河川も氾濫し、流域集落を襲っています。県民クラブで被災地区の調査に入った際に、被災した集落の住民の方から、「これまで20年近く河川改修の要請をしてきたが、ずっと計画にも挙げてもらえなかった。河川の改修が行われていれば、今回のような被害は無かった」と涙ながらに訴えられていたことが強く印象に残りました。

河川改修は、下流域から計画的に進められてきましたが、上流域に到達するのはまだまだ先の話。しかし、危険性の高い箇所は何らかの対応策を講じなければこのようなことを繰り返すことになってしまい



◀熊の尾川流域で被災した公民館

土砂崩れにより通行できなくなった連絡道(耶馬溪地区で)



状況でした。梅雨前線

ます。川底の掘り下げなど、集落の安全性確保のための工夫が必要で、住民の方々が安心して暮らせるだけの安全性の確保の観点で、治水について総合的に検討するべきでしょう。

また、竹田市では7月12日の豪雨の際に県の総合庁舎が床上浸水してしまいました。早朝と言うこともあり、公用車48台が水につかり、使用できなくなりました。1990年7月2日の水害の時も、この庁舎は床上浸水しています。大分県地域防災計画(風水害等対策編)では、災害発生時には各振興局に地区災害対策連絡室を設置し、地区内の災害情報の収集及び伝達や地区内の地方機関の対処体勢・活動状況の把握を行わなければなりません。つまり地域の災害対応の拠点となるのが県庁舎です。どのようにしてその機能を確保していくのか、考えなければなりません。



▲被災した竹田総合庁舎



行動日誌

- 4. 16 沖縄米軍調査(~18日、沖縄県)
- 20 条例づくりの会条例づくり班学習会
- 21 商業界定例会
- 23 条例をつくる会事務局会議
- 24 地方議会制度研修会
- 26 県立美術館基本設計説明会
- 27 大分県職員退職者会グランドゴルフ大会
- 27 総務・企画常任委員会
- 28 メーデー集会
- 28 社会科学研究会
- 5. 3 憲法記念日講演会
- 8 自治労自治体議員連合研修会(~9日)
- 12 上野丘高校同窓会役員会
- 12 NPO大分県防災活動支援センター研修会
- 13 津留地区体育祭
- 17 総務・企画常任委員会県内調査(5/24・25・6/1・7・8)
- 19 城東中学校体育祭
- 19 商業界定例研修会
- 21 条例づくり班学習会
- 26 原水爆禁止大分県民会議総会
- 26 社会科学研究会
- 27 津留地区体育協会理事会・評議委員会・総会
- 27 津久見市広域瓦礫処理に関する説明会
- 28 大分政経懇話会(講師:和泉昭子氏)
- 29 自治労県本部労働学校
- 31 がれきに関する学習会(東京都)
- 6. 4 条例をつくる会事務局会議
- 5 緑友会大分支部総会
- 10 伊方原発反対集会(松山市)
- 13 震災がれき現地調査(仙台・南相馬市・福島市)(~15日)
- 6. 16 商業界定例研修会
- 19 県議会開会(~7/4)
- 20 日出生台対策会議対県申し入れ
- 23 連合大分役員研修会(講師:山口二郎氏)
- 24 津留小PTA父親部ミニバレーボール大会
- 27 被災地がれき調査概況の報告(津久見市)
- 28 条例づくり班学習会
- 7. 1 津留体協スローピッチソフトボール大会
- 5 豊肥・地域高規格道路建設促進期成会総会
- 5 津留地区体育協会理事会
- 6 自治労県本部自治研集会(~7/7、日田市)
- 7 守永信幸後援会総会
- 8 津留体協グランドゴルフ大会
- 8 福島原発震災情報ネットワーク大分学習会
- 9 伊方原発停止・廃炉共闘会議結成総会
- 10 大分政経懇話会(講師:辺真一氏)
- 11 県民クラブ豪雨災害現地調査
- 12 県中部・西部・北部水害早期復旧に向けての申し入れ
- 14 社会科学研究会
- 15 津留体協救命講習会
- 16 横田めぐみさんご両親の講演会
- 17 広域行政機構委員会傍聴
- 20 伊方原発停止・廃炉申し入れ(対生環部長)
- 21 日中友好協会総会
- 21 商業界定例研修会
- 22 大分障害フォーラム
- 23 大分外郭環状道路建設促進協議会総会
- 24 大分政経懇話会(島村俊治氏)
- 25 総務企画常任委員会・豊肥地区調査
- 27 誰もが安心して暮らせる大分県づくり条例をつくる会学習会
- 28 原水爆禁止パネル展

お知らせ

- ◇県議会や私の活動に関する報告会を皆さまの要請に応じて開催していきたいと考えています。数人の集まりでも結構ですので、機会があればお知らせください。日程を調整させていただきます。
- ◇守永信幸後援会の総会を7月7日に開催しました。約100名の方々にお集まり頂き、大いに激励されました。また、守永信幸後援会の会員を常時募集しています。年会費3千円ですが、守永を支援してやろうとお考えの方、是非ご加入をお願いします。(連絡先:097-532-4919 担当=後藤)

編集後記

先日、ある団体の学習会で株式会社船栄(新潟県長岡市)の顧問、小船井チイさんのお話を伺う機会を得ました。講演の後に名刺交換をさせて頂いた時、「素敵なお仕事ですね」と言ってくれました。名刺交換の際に、そのような声をかけてくださった方は、初めてでした。強く印象に残りました。本当に素敵なお仕事ができるように、努力しなければと感じたところです。さりげない会話に、人を強く引きつけることの出来る方というのはいらっしゃるものですね。